

令和元年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト 1000)里地調査

生物多様性センター

愛媛県生物多様性センターでは、環境省が全国規模で基礎的環境情報の収集と長期生態系観測を行う、重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト

1000)里地調査において、四国地区重要監視地点(コアサイト)となっている東温市上林地区における水質調査を、平成20年度から実施している。

令和元年度も引き続き、拝志川流域の5地点(河川4、ため池1)で4月22日、6月21日、8月26日、10月28日、12月24日、翌2月27日の計6回調査を実施した。結果は以下のとおりである。

令和元年度モニタリングサイト1000里地調査(水質調査)結果*

調査項目	4月	6月	8月	10月	12月	2月
水温(℃)	14.4	16.8	18.6	14.2	9.4	8.5
	20.4	23.2	25.4	17.6	8.3	9.2
水位(cm)	17.8	20.5	20.8	24.0	22.0	22.8
	760	760	760	測定不能	480	760
水色	—	—	—	—	—	—
	16	18	17	11	15	16
透明度	80.0	100.0	97.5	98.5	100.0	100.0
	100.0	85.0	82.0	11.0	100.0	100.0
pH	7.3	7.4	7.2	7.4	7.2	7.1
	7.6	7.6	7.2	6.6	7.0	7.0

※上段は河川4地点の平均値、下段はため池1地点の値

調査方法は、「モニタリングサイト1000里地調査マニュアル」(環境省・(財)日本自然保護協会)による。

令和元年度特定外来種等対応状況

生物多様性センター

第2次生物多様性えひめ戦略に基づき、外来種対策の推進を図っている。令和元年度は市町担当課や一般県民から哺乳類・鳥類4件、爬虫・両生類1件、昆虫・クモ類35件の情報提供があり対応を行った。

センターへの外来種情報提供数

	哺乳類・鳥類	爬虫・両生類	昆虫・クモ類	植物
東予	1	1	13	0
中予	3	0	13	0
南予	0	0	9	0
計	4	1	35	0

アライグマ疑い種については、情報提供のあった地点での自動撮影カメラ撮影を行ったが、アライグマは撮影されなかった(撮影された哺乳類:タヌキ、ハクビシン)。ゴケグモ類は写真若しくは捕殺個体の持ち込みによって同定を行い、ゴケグモ類と判別されたものについては周辺環境調査等を行った。ヒアリ類は写真または個体持ち込みによる判別を行った。外来カメ類に関しては、写真による判別が中心であったが、今治市のカミツキガメに関しては2018年度以降、継続的な捕獲調査を実施している。

1 アライグマ

令和元年度の確実な生息情報や捕獲情報は無かった。2018年にアライグマの生息が確認された松山市と松前町において痕跡調査を継続しているが、アライグマの特徴を有する痕跡は確認されていない。

2 ゴケグモ類(セアカゴケグモ・ハイロゴケグモ)

ゴケグモ類は18件の情報提供があり、松山市1件、西条市2件、新居浜市1件はセアカゴケグモであった。また新居浜市と四国中央市で各雌1頭のハイロゴケグモが確認された。令和元年8月、新居浜市において県下最大規模の個体数が確認されたことを受けて、新居浜市と共同で初動対応(捕殺およびモニタリング調査)を行った。

3 ヒアリ類(ヒアリ・アカカミアリ)

令和元年度の情報提供は17件で、すべて在来種または非特定外来生物であった。新居浜市の港湾を対象に1回/月の頻度でベイトトラップによるモニタリング調査を市と共同で継続している。

4 外来カメ類

2018年から今治市、とべ動物園と共同して捕獲調査を実施している。令和元年度の捕獲調査では3頭のカミツキガメが捕獲されたが、2頭は比較的若齢の個体であった。次年度以降も捕獲調査を継続し、成体捕獲による産卵抑制を図っていく。